

担い手の経営のライフステージに応じた支援

 (8) 地域との連携による新規就農支援
JA伊豆の国 (静岡県)

新規	継続
	○
	(平成 5 年 4 月)

1 動機(経緯)	地域農業の担い手の減少と高齢化により、地域農業の衰退が危惧される中、これからの地域農業を支える担い手の育成・支援が、もっとも重要な役割として位置づけられています。行政、JAが一体となって、地域農業の担い手となる人材の育成と支援を図るべく平成 5 年より新規就農支援に取り組んでいます。
2 概要	JA伊豆の国管内における基幹作物であるイチゴとミニトマトの施設園芸農業の就農に向けて、高い技術と指導力を持った熟練農業者の下で、1年間から2年間の研修を行い、農業経営者としての経営理念の確立と栽培の基礎知識を習得してもらいます。 JAとして次のとおり支援を行います。 1 就農計画の作成支援、制度資金借入金手続支援、栽培農地の幹旋、栽培施設・設備取支援、巡回指導、各関係機関との連携・調整等。 2 JA伊豆の国ニューファーマー地域連絡会を設立し、研修受入農家、行政、JAとが連携し、多方面から新規就農者を支援しています。毎年1回、意見交換会を開催し、就農後の経験談や日々の問題を話し合い、一緒に問題策を探り、地域全体で情報を共有する場となっています。
3 成果(効果)	平成 29 年には 4 名が就農しました。累計就農者は 71 名であり、全国でも有数な育成先進地となっています。 新規就農者の増加とともに、作物の収穫作業などを担う人材が必要になり、地域の新たな雇用にも貢献しているほか、新規就農者と、その家族の増加は地域の人口増加にも寄与しています。
4 今後の予定	平成 30 年度は 5 名が就農の準備をしています。今後も継続した取り組みを進め、地域農業の発展と地域全体の活性化に貢献していくよう、事業間連携も深めながら、JAの役割と責任を認識して取り組んでいきます。